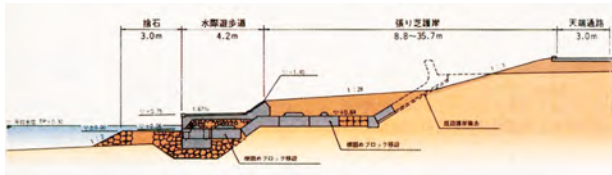
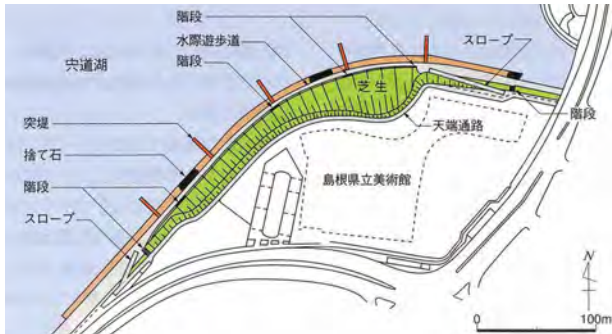


⑤ 景観設計・ランドスケープデザイン

■ 宍道湖県立美術館前護岸・岸公園 [日本建設コンサルタント(現・いであ) / 国土交通省中国地方整備局] 1995-98

松江市の宍道湖、水的美術館(県施設・設計:菊竹清訓)の前面に広がる湖岸(国)との間の公園(市)、美術館敷地(県)の一体設計の事例。河川コンサルタントとの協働でのプロポーザルを経て、基本・実施設計のうち景観設計を担当、従前のコンクリート護岸を極力緩傾斜の芝面の自然な土堤構造に改修する提案が採用された。美術館から水面が直接望めるように緩傾斜の芝生土堤を基本とし、波に洗われる水際の遊歩道は自然石を敷き、伝統的工法の松杭と石塊による突堤を配することで、水の流速が弱まり砂の自然堆積を誘導し、生息するしじみの生態に配慮、そして景観と歩行者安全性への対策を行ったもの。ゆるやかな斜面の芝生には美術館敷地と一体となるように彫刻を配し、水際遊歩道、湖面へとつながる。今では宍道湖に沈む夕日を望む観光名所ともなっている。



■ 松江・宍道湖県立美術館前護岸・岸公園(つづき)

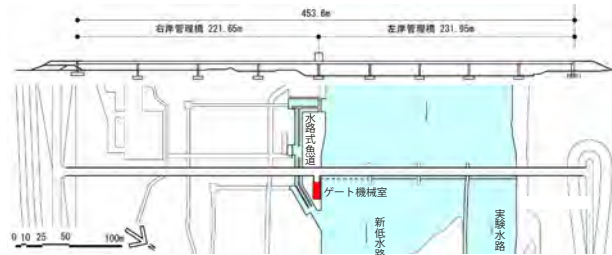


経緯 プロポーザル・'95.12(特定・元請・いであ[社名変更・当時・日本建設コンサルタント]) アプルは景観設計を担当 / 基本・詳細設計-'96.1~'97.3 / 受賞等: '95年度中国地方建設局長表彰、'00年しまね景観賞、'04年土木学会景観デザイン賞最優秀賞受賞 諸元 名称: 岸公園(宍道湖袖師親水型護岸堤) 所在地: 松江市袖師町 事業主体: 国土交通省(当時・建設省)中国地方整備局出費工事事務所 湖岸延長: 421.0m 護岸幅: 22~48m / 対象面積: 約8,400㎡ 設計: いであ+アプル総合計画事務所 工事期間: '97.3~'99.3 施工: 松江土建、豊洋建設、広戸組 担当: 中野、重山、浦岡、中井

■十勝川・千代田分流堰 [日本建設コンサルタント(現・いであ) / 国土交通省北海道開発局] 2001-02

北海道幕別町の十勝川・昭和10年に築造された千代田堰堤(農業取水堰・サケ捕獲場・観光資源)を残しつつ、川の流下能力確保のための可動堰を備えた新水路を建設するプロジェクトである。周囲の「十勝川エコロジーパーク計画」と連携すべく、人工構造物は自然に溶け込むべく、分流堰ゲートは起伏式(転倒式)とし、長大な管理橋はRC箱桁連続橋、中間部の操作室は傾斜橋台上に置かれた直方体のコンクリートの単純な箱とした。アプルの計画の目的が見えてきた基本設計段階に関与し、全体構成と唯一の建築的要素である堰上に設置されるゲート機械室棟の設計に注力した。

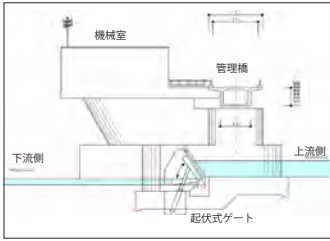
竣工から10数年経過したいまも周囲の大平原のなかで凛として存在する姿は、歴史的土木遺産・千代田堰とともに、十勝川エコロジーパークを構成する新たなランドマークとして機能している。



千代田分流堰・管理橋・ゲート機械室(赤着色)配置平面図



十勝川エコロジーパークの全景と千代田分流堰・管理橋位置図(現地説明撮影図に対象の新水路分流堰+管理橋位置を赤枠記載)



起伏式ゲートおよび機械室部断面図



十勝川千代田新水路管理棟(国土交通省北海道開発局帯広開発建設部現地事務所) 屋上から管理橋とゲート機械室棟および新下水路を望む



ゲート機械室(左上)と右岸管理橋、水流調節のための起伏ゲートと流れ落ちる大量の水



十勝川エコロジーパーク千代田えん堤公園の誘導サイン

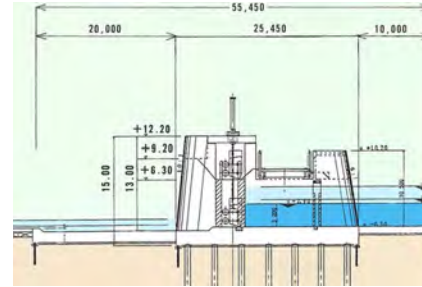
経緯：十勝川千代田分流堰詳細設計協力業務(景観設計) '01.8～'01.10 日本建設コンサルタント(現・いであ) / 国土交通省北海道開発局帯広開発建設部帯広河川事務所、注：「十勝川エコロジーパーク計画」と連携、ランドスケープデザインは高野ランドスケーププランニング 担当：中野、吉田、加藤 諸元 所在地：北海道中川郡幕別町(位置：十勝川(KP42.5～45.3) 幕別町・池田町) 河道掘削：延長約2,600m 幅160m、水路勾配：1/637～1/807、事業主体：国土交通省北海道開発局帯広開発建設部 竣工2005年10月(新水路完成2007年)、堰堤工：分流堰(鋼製背面支持式起伏ゲート)：扉高3.91m・幅43.3m×4門、管理橋：形式5径間連続箱桁(左岸橋)+4径間連続箱桁(右岸橋)、全長453.8m、径間長(49.1+3@45.3+45.25)+(55.15+3@55.0)m、有効幅員6.5m 全幅員7.7m 設計：日本建設コンサルタント(現・いであ)、景観設計：アプル総合計画事務所(基本設計のみ)、施工：可動堰・IHIインフラ建設、右岸橋・オリエンタル白石、左岸橋・オリエンタル・萩原JV、管理棟・宮坂建設工業

■高知宿毛・松田川河戸堰景観設計 [日本建設コンサルタント(現・いであ) / 高知県] 1996-99

高知県宿毛市の松田川の河口部にかかる江戸期の野中兼山築造による歴史的な河戸堰に替わる新たな可動堰と管理橋の景観設計、篠原修東京大学土木工学科教授(当時)とともに関与した。デザインは篠原氏の指導を受け、中野のもとで中井祐(現東京大学土木工学科教授)が担当、日本建設コンサルタント(現・いであ)と清水建設景観グループ(畑山義人氏他一当時)の技術サポートによって当初設計(スライドゲート頂部に疑似和風管理室が並ぶ)の見直し案を作成し、現場段階での監理等にも関わってきた。その後、中井が東京大学に移り、周辺公園計画も含め完成まで関与した。



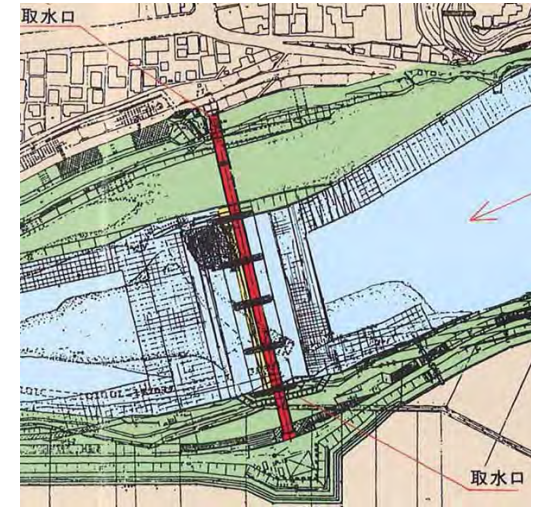
江戸期の取水口石積(中野が現場立会て変更協議の結果、保存が実現した経緯がある)



可動堰と管理橋断面図



右岸側から見た管理橋と可動堰



可動堰と管理橋平面図、右岸側の濃い部分は保存された江戸期の石組遺構



完成から20年近く経過した可動堰と管理橋、年数を経てコンクリート製堰柱は苔や微で黒くなり、現地の風景に溶け込んでいるように見える

諸元 所在地：高知県宿毛市中央、和田 事業主体：高知県宿毛土木事務所 竣工2004年10月(着工1994年)、可動堰：全長106.2m、径間長24.0m×4門、扉高3.2m(1.00+2.20)ゲート構造—シェル構造ローラーゲート2門、シェル構造フラップ付ローラーゲート2門(油圧リフト式) 管理橋：単純ワーレントラス橋+2径間連続ワーレントラス橋(下路式ポントラス) 支間長28.5m、27.1m、27.4m、32.9m+33.0m 有効幅員5.5m 全幅員6.3m 設計：日本建設コンサルタント(現・いであ) 景観設計：アプル総合計画事務所+清水建設景観デザイングループ 実施設計：アプル総合計画事務所 アドバイザー：篠原修/担当：中野、重山、浦岡、中井、岩村、熊耳、星野

■ 広島元安川・元安橋橋詰広場 [建設省中国地方建設局太田川工事事務所(当時)] 1991-92

広島市の太田川支流元安川沿いの原爆ドームの下流の元安橋の橋詰左岸護岸と小広場の景観設計、工事段階での変更設計を中村良夫東京工業大学教授(当時)の指導の下で担当した。リパークルーズ乗船場の斜路、階段、広場等のデザインにあたって、隣接する広島市の公園、橋の修景との調整等を行ったもの。後に広場に仮設リパークフェ(オクタゴン)を経て、今では本格的なレストランカフェがオープン(河川法による河川利用特例措置適用区域)。



元安橋から見る橋詰広場とリパークフェ(2002年)

経緯 元安橋橋詰部景観設計協力'91.8～'92.3 建設省(現国土交通省)中国地方建設局/設計指導:中村良夫・東京工業大学教授(当時)
 諸元 所在地:広島市中区大手町 担当:中野、小野寺、関本、金光

■ 広島太田川・長寿園桜堤プロムナード [建設省中国地方建設局太田川工事事務所(当時)] 1991-92

太田川基町環境護岸上流部に位置する長寿園地区の桜並木プロムナードの改修に際し、中村良夫東京工業大学教授(当時)の指導のもとで、川への視線誘導のための既設のコンクリート堤防壁の撤去とプロムナード盛土を前提とした場合の、既存桜並木の保全策と補植、転落防止柵の意匠検討、休憩施設配置等を提案した。今では水面を望む桜堤として定着している。



改修された直後の長寿園桜堤(1990年代)

経緯 広島太田川取水口設計協力'92.3～'3/長寿園景観設計'92.5～'8 建設省(現国土交通省)中国地方建設局/設計指導:中村良夫東京工業大学教授(当時)
 諸元 所在地:広島市中区西白島町、白島北町 担当:中野、小野寺



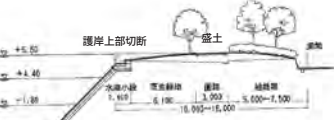
仮設リパークカフェ(2002年)



本格的なレストランカフェ(2011年)



改修前の長寿園桜並木プロムナード



河川護岸およびプロムナード断面図

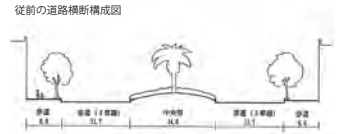
■ 鹿児島みなと大通り公園 [社]日本交通計画協会/鹿児島市 1988

鹿児島市の中心部、市役所から真っ直ぐに錦江湾にのびる幅員50mの広幅員道路の景観整備の見直しに参画した事例。コンサルタント作成の道路内に鹿児島港に入港した実績のある「クイーンエリザベス号」をモチーフにした原寸大オブジェ整備基本設計案を景観マスタープラン委員(中村良夫氏)より見直し協力作業を要請され、実施設計の枠組みの中で計画から基本、実施設計までを担当した。

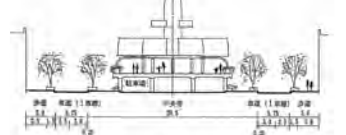
あらためて場所の特性を再確認し、戦災復興計画の景観軸=海への通景(ビスタ)の尊重を提案、歩車道の一体的利用が可能な「みち広場」を提案し、シンプルでかつ歩車道一体の「市庁舎前広場」としての多目的空間となるような仕掛けを用意した。正面の広場は日常的には噴水広場、水を止めれば様々なイベント利用の広場となり、市は完成までの間に経済界や地元町内会にも働きかけ、今では夏祭りやイルミネーションイベント、物産市会場など様々な活用が定着している。行政主導だが、地元市民との協働の成果を経験する記念プロジェクトとして本稿に掲載する。



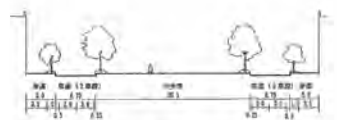
みなと大通り公園の鳥瞰写真*



コンサルタント提案段階の道路横断構成図(見直し)



アブル提案の横断構成図(採用)



道路幅員構成(案)の変遷



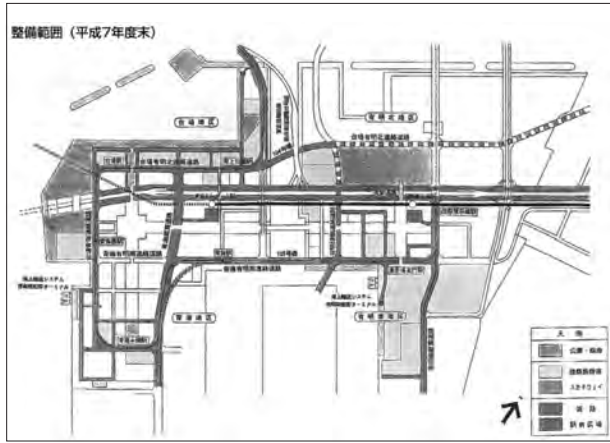
歩車道一体の石舗装*



みなと大通り公園のイベント風景市庁舎屋上より*

諸元 所在地:鹿児島市名山町・易居町 事業主体:鹿児島市 対象道路:幅員50m、延長約250m 工事期間:'88～'92 施工:丸福建設、吉屋組、栗田工業、坂本建設、他 事業費:約1億7千万円/撮影:*久高良治(7cni・s77) 担当:中野、松村、小野寺、重山、協力:詳細設計・大福測量設計

東京都副都心の公共空間、とりわけ道路に関してはインフラとして景観面への配慮が求められ、「景観検討委員会の設置」「デザインコーディネーター方式による景観設計」が行われてきた。中野は2カ年の委員会委員、最終年のデザインコーディネーターとして全体の調整、デザイナーの組織化、実施設計コンサルタントによる設計への移行、そして製作物の意匠監理に関わってきた。とりわけ短期間に総延長26kmにわたる事業の性格上、ポール型施設のシステム設計、歩車道境界部のデザインの統一などを心掛け、実現した。



ゆりかもめお台場駅周辺*



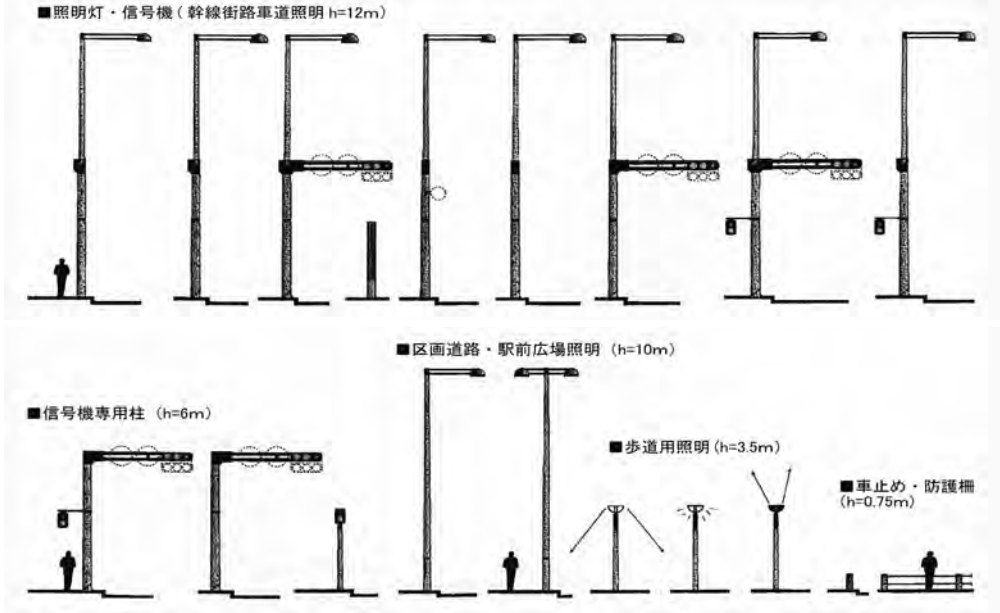
車道灯 h = 12 m 型・標識*



車道灯・h = 10 m 型*



歩道灯・h = 3.5 m 型・車止め*



街灯・信号機・車止め類のシステムデザイン



夜間景観 (ゆりかもめ軌道ライトアップ: LPA 担当)*

諸元 所在地:東京都江東区、港区 事業主体:東京都建設局、港湾局、東京臨海副都心 設計体制:アドバイザー篠原修、養茂寿太郎、プロデューサー井上正良、デザインコーディネーター中野恒明 共同作業:アーバンデザインコンサルタント、GK設計、LPA、吉田慎吾/写真:*ヨシモトポール提供、撮影ナカサ&パートナーズ 担当:中野、重山、金光、中井、(協力:エンバイロ・システム)

■皇居周辺道路景観整備計画～設計 [財道路環境研究所／建設省－当時，東京都，千代田区] 1988-96

首都東京の中心・皇居を周回する道路を管理する国、都、区の3道路管理者（国、都、区）と関係する警視庁、文化庁、宮内庁、環境庁の7機関が一堂に会し、皇居周回道路および国会周辺、行幸道路等延長約13km区間を対象の統一的な景観整備を実施すべく「皇居周辺道路景観整備委員会（委員長・中村良夫東京工業大学教授・当時）」が発足したのが昭和の末、その改修は全体を一貫した設計思想のもとで、景観設計指針を取り纏めたうえで、事業化に移行し、アプルは財団法人道路環境研究所をサポートする形で全体の基本計画の作成から、具体的設計まで一貫して関与した。ここでは道路内の構成要素だけでなく、周囲の景観資産をいかに取り込むか、または見せるかに主眼を置き、既存の景観資産の活用、沿道の緑地や公共施設と道路との一体設計、視点場としての緑地整備など、総合的な景観設計を目指してきた。

この景観設計指針に基づき、主要区間については1993年の皇太子ご成婚祝賀パレードまでに概成し、周回歩道部（延長約5km区間）には各都道府県等から贈られた50点（@100m）の「花の輪」の石製象嵌が埋め込まれ、今ではジョギング利用者の里程標の役割も果たしている（別途事業－設計調整に参画）。

設計は国道区間に関しては、財）道路環境研究所（委員会・幹事会・調整会議運営）を介して、アプルが担当し、都道区間は基本設計のほか全線の照明設計、緑地の一部（まちかど庭園整備事業）、千代田区道区間は照明設計協力と竹橋公衆トイレ（建築）の設計を担当した。東京駅前の「行幸通り」については当時の委員会幹事長・篠原修東京大学名誉教授の指導のもとに、アプルOB・小野寺康設計で2018年に完成した。



皇居周辺道路景観整備計画を掲載した機関紙特別号



改修整備後の晴海通り（歩道部）の風景*

経緯 皇居周辺道路景観整備計画（建設省・東京都・千代田区）'88.9～'89.3・皇居周辺道路景観整備計画委員会（委員長 中村良夫東京工業大学教授、幹事長 篠原修東京大学教授（ともに当時））／対象地：東京都千代田区、他 国道区間・延長約3.4km・国道1号（日比谷通り～大手町～日比谷、晴海通り～日比谷～桜田門）延長約1.85km、国道20号（桜田門～半蔵門）約1.30km、国道246号（三宅坂～隼町）他、都道区間・延長約7.71km・都道301号（祝田橋～平川門）約1.76km、都道401号（平川門～九段下、九段上～半蔵門）約2.08km、都道404号（皇居前東京停車場線）約0.49km、約0.25km、中官1-6-7-8-9号（国会周回道路）他、区道約1.95km・区道229号（竹橋～千鳥が淵）他、事業主体：建設省（当時・現国土交通省、東京都、千代田区、計）総延長13.06km 設計協力：照明デザイン・ナグモデザイン（南雲勝志）、担当：中野、松村、小野寺、大嶋、重山、清水、関本、吉田、金光、藤本、郷田 撮影：*安川千秋、**岩崎電気(株)提供

■皇居周辺道路景観設計（つづき） [財道路環境研究所／建設省－当時，東京都，千代田区] 1988-96



国会前交差点の「鳳凰型」12m街路灯*



都道内に設置された「鳳凰」10m街路灯*



区道・代官通りに設置された「鳳凰」8m街路灯*



歩道内に設置された歩道灯（黒錆安定処理鋳物灯柱）*



対象区間位置図



内堀通り（国道区間）歩道部**



日比谷通り（国道）*



日比谷通りの歩道部**

諸元（設計対象）所在地：東京都千代田区、他 国道区間・延長約3.4km-国道1号（日比谷通り-大手町～日比谷、晴海通り-日比谷～桜田門）延長約1.85km、国道20号（桜田門～半蔵門）約1.30km、国道246号（三宅坂～集町）約0.25km、都道約4.96km-都道301号（祝田橋～平川門）約1.76km、都道401号（平川門～九段下、九段上～半蔵門）約2.08km、区道約1.14km-区道229号（竹橋～千鳥が淵）他、事業主体：建設省（当時・現国土交通省、東京都、千代田区 設計協力：照明デザイン-ナグモデザイン（南雲勝志） 工事期間：'89年～'98年 写真撮影：*安川千秋、**小椋利文、***岩崎電気㈱提供



日比谷通りの転落防止柵と植栽樹グリエ（御影石製）**



平川漆緑地**



平川漆緑地**



大手漆緑地*



桔梗漆緑地



大手漆緑地**

皇居周辺緑地 皇居周辺緑地整備設計（東京都）'89.10～'90.3／皇居周辺緑地整備（東京都）'90.6～'8／緑地整備設計（大手漆緑地：東京都）'91.6～'9／緑地整備設計（平川漆緑地：東京都）'92.5～'7／竹橋公衆便所設計（千代田区）'93.5～'7
諸元 緑地／事業主体：東京都 桔梗漆緑地—約900㎡、大手漆緑地—約2,000㎡、平川漆緑地約2,400㎡ 施工：富士植木、日産緑化 他 工事期間：'90～'96／撮影：*安川千秋、**小椋利文 担当：中野、松村、小野寺、大嶋、重山、清水、金光、藤本

■埼玉県芸術劇場周辺道路景観整備 [(財) udc / 与野市 (当時・現さいたま市) 1992-93

埼玉県芸術劇場のオープンにあわせ、JR 埼京線与野町駅からの歩行者主要動線整備にかかる鉄道沿い JR 遊休地活用、さらには街路 (タツミ通り) と劇場前広場との一体整備の景観設計である。設計は検討委員会 (委員長 - 窪田陽一埼玉大学教授 - 当時) の指導助言のもと、駅前広場および緑地、そしてタツミ通りの電線地中化と修景整備に当たっては劇場の設計者である環境造形研究所 (現・香山建築研究所) とのデザイン調整を行った。緑地にはバラ園が設けられ、与野公園との一元管理が実現している。

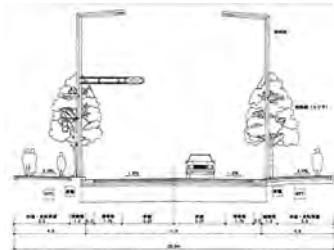


駅前広場内緑地の憩いの空間

経緯 県民芸術劇場周辺道路景観方針の策定調査 '92.9 ~ '93.3 財 (与野市) / 県民芸術劇場周辺道路景観方針策定 '93.6 ~ '94.3 与野市
 諸元 所在地: さいたま市本町東 / 事業主体: 与野市 (現さいたま市) 2001 年土木学会景観デザイン賞優秀賞「与野町西口都市広場」
 担当: 中野、小野寺、中井、協力: 小野寺康都市設計事務所 (途中独立) / 街路灯デザイン - ㈱ミンツデザイン (別途、デザイン調整)



タツミ通り、埼玉県芸術劇場方面をのぞむ、



タツミ通り断面図

■川崎大師参道仲見世 [大林組 / 川崎大師仲見世通会] 1988-2001

初詣の賑わう川崎大師の参道仲見世の商店街整備の事例。工会社よりデザイン依頼を受け、計画設計を担当。行政 (川崎市都市デザイン担当) との協議、地元調整を経て、1989 年春完成。幅員 6m、延長 150m の単断面道路で、歴史的な参道の位置づけから沿道の街並みの保全、地となる舗装のデザイン (厚さ 9cm の白御影石を採用)、寺の由来にまつわる街路灯のデザインを採用している。



川崎大師参道仲見世の石畳

経緯 川崎大師参道商店街修景計画・実施設計 '88.11 ~ '89.2 ㈱大林組 (川崎大師仲見世通会) / 川崎大師周辺地域景観形成基礎調査 '00.10 ~ '01.3 川崎市
 諸元 所在地: 川崎市川崎区大師町 事業主体: 川崎大師仲見世通会 (表層工)、川崎市 (基盤工) 対象道路: 幅員 6m 延長: 約 150m 面積: 約 900 m² 工事期間: '89.1 ~ '4 施工: 大林組 / 撮影: * 安川千秋
 担当: 中野、松村、重山、協力: 照明デザイン - ナグモデザイン (南雲勝志)



街路灯 (デザイン: ナグモデザイン)*

■宇都宮中央通りシンボルロード [(一社) 日本交通計画協会 / 宇都宮市・栃木県] 1985

栃木県庁と宇都宮市庁舎の 2 つの行政核を結ぶ幅員 20m、延長約 1km のシンボル道路としての位置づけの中央通りの基本実施設計を担当。都心の中での対象道路の位置づけ、中心市街地の歩行者空間ネットワーク整備、沿道の街並形成の提案から歩車道の幅員構成の変更のための基礎的作業、路面、植栽、街灯、信号機、街具などを含み街路空間総体の景観設計を行ったものである。



中央通りシンボルロード (市道区間)

諸元 所在地: 宇都宮市本町、江野町、曲師町、池上町ほか 事業主体: 栃木県、宇都宮市 対象道路: 幅員 22m 延長: 約 1,000m 工事期間: '86.10 ~ '92.3
 施工: 渡辺建設、増淵組ほか シンボルロード関連事業として、まちかど広場整備事業 (設計: アトリエ U D I) / 撮影: * 安川千秋
 担当: 中野、北嶋、萩原、松村、協力: 照明デザイン - 大野秀敏、詳細設計 - 富貴沢コンサルタン



信号機共架型街路灯*

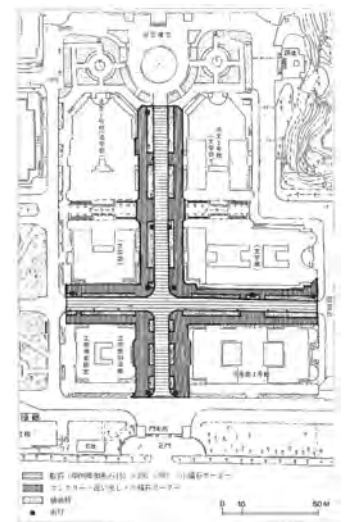
■東京大学法文十字路 [竹中工務店 / 東京大学施設部] 1994

東京大学本郷キャンパスの再整備の一環としての外部空間の環境デザインを担当した。震災後のキャンパス計画の現型を残す大学正門前の法文地区 (歴史保存地区) の 4 建物の改修にあわせ、十字路を自動車の進入を抑制し、歩行者路として整備することとなり、計画当初の資料 (写真) の発掘を通し、歴史的ディテールの保存に努めてきた。旧車道部は石畳とし、歩道部は周囲の建物の外壁との関係から硬質砂岩の洗い出し仕上げと小舗石の組合せ、銀杏並木足元の地被植栽、街灯のデザインの復元などの意匠設計指導、デザイン監理を行った。



東京大学法文十字路 (安田講堂正面)

諸元 所在地: 東京都文京区本郷 事業主体: 東京大学施設部 対象面積: 約 6,200 m² 正門前道路: 幅員 24m、延長 150m 図書館前道路: 幅員 20m、延長 130m 主な仕上げ: 旧車道部 - 御影石舗装 (290 × 440 × 90mm の板石 + 小舗石)、歩道部 - 硬質砂岩骨材洗い出しコンクリート仕上げ + 小舗石、街路樹 - イチョウ (既存樹)、地被植栽 - リュウノヒゲ、街灯 10 基 設計: OAC 設計 (建物改修他) デザイン指導・監理: アプル総合計画事務所 照明復元設計: 大野秀敏 施工: 竹中工務店 (照明灯 - ヤマギワ) 工事期間: '94.5 ~ '10
 担当: 中野、中井、郷田



東京大学法文十字路位置図

■岐阜・長良川鵜飼大橋

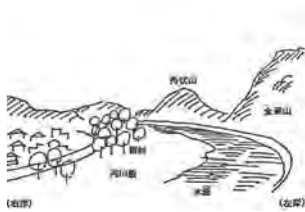
〔財〕岐阜県企画設計センター・大日コンサルタント(株) (岐阜県) 1994-2003

岐阜・長良川の金華山背面の東側上流部日野・雄総地区に架橋が予定されていた468mの橋梁(岐阜環状線の一部)の計画設計に参画した。場所は市内でも最も自然が豊かな風光明媚の地として、伝統行事である「上鵜飼」の開催地(長良橋近傍は「下鵜飼」と呼ばれる)でもあり、架橋条件としては周囲の自然の形に馴染む形であること、「鵜飼」に悪影響を及ぼさないことなどが求められてきた。

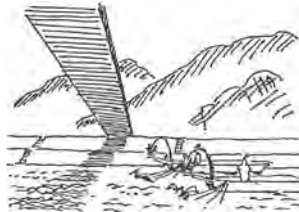
様々な代替案検討を経て、景観検討委員会(委員長・大野秀敏 東京大学助教授(当時))を経て、県知事の意向も踏まえ、鵜飼必要水面幅を確保するため150mのスパンの斜長橋と5径間連続箱桁橋(60m×5)が採用された。斜長橋の主塔を左岸堤に配し、金華山の山懐に抱かれる形とし、鵜飼への配慮とともに、金華山、高水敷の公園からの景観、桁下の表情づくりにも配慮している。2003年3月、竣工を迎え「鵜飼大橋」と命名された。2004年度土木学会田中賞受賞作品。



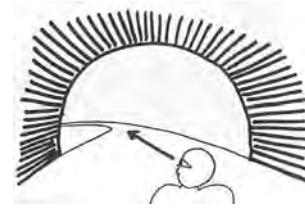
鵜飼大橋位置



景観設計方針①周囲の風景との調和



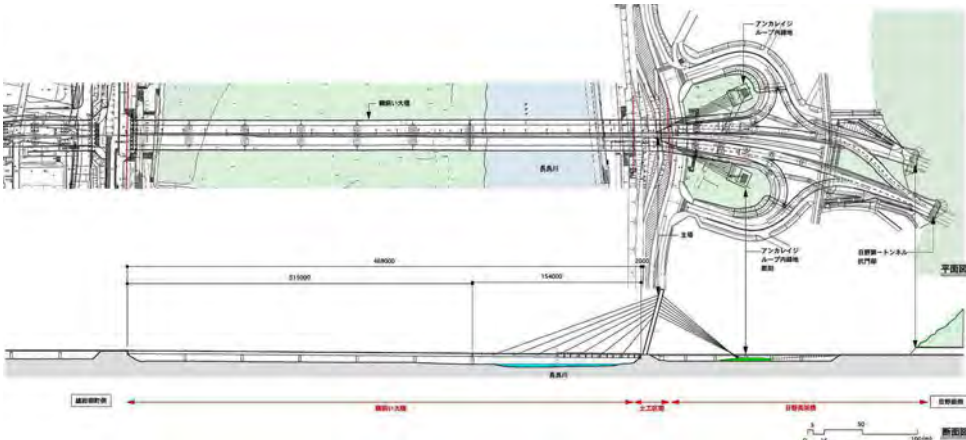
景観設計方針②鵜飼への配慮



景観設計方針③岐阜への新たなゲート(環状線)



鵜飼大橋の右岸・長良川温泉駐車場からみた全景



鵜飼大橋の平面図・側立面図

経緯 (仮称) 日野橋景観設計'94.8~95.3 (財)岐阜県企画設計センター(大日コンサルタント(株)と協働-岐阜県)、(仮称) 日野橋詳細設計協力(景観設計)'96.6~97.3 大日コンサルタント(株)(岐阜県)、都市計画道路環状線岐阜市日野地区景観検討'00.11~01.3 大日コンサルタント(株)(岐阜県)、岐阜環状線岐阜市雄総日野地区景観検討'01.7~02.3 大日コンサルタント(株)(岐阜県)、都計道環状線岐阜市日野橋(鵜飼大橋)照明デザイン実証実験および橋梁色彩現地実験'03.3~03.3 大日コンサルタント(株)(岐阜県)

■岐阜・長良川鵜飼大橋(つづき)



右岸高水敷より鵜飼大橋の橋桁と主塔を見上げる(竣工後17年経過時点)



左岸主塔アンカレッジ部緑地から鵜飼大橋を望む



親柱サイン(大野秀敏氏デザイン)



歩道部高欄

諸元 所在地: 岐阜市長良雄総-西日野 事業主体: 岐阜県 構造形式: 鋼単径間斜長橋(154m)+鋼6径間連続非合成箱桁橋(315m)、橋長: 469m、幅員: 28.3~29.1m、主塔の高さ: 60m(傾き15度) 工事期間: '96.9~'03.3 事業費: 約102億円 基本設計: (財)岐阜県企画設計センター 構造担当: 大日コンサルタント 景観設計: アプル総合計画事務所 景観検討委員会(委員長・大野秀敏 東京大学助教授(当時)) 詳細設計: 大日コンサルタント 照明デザイン: 石井幹子デザイン事務所(別途発注) 施工・製作: 川田工業、川崎重工業、駒井鉄工、新日本製鉄、横河ブリッジ 2004年度土木学会田中賞受賞作品 担当: 中野、清水、吉田、金光、中井、久野、熊耳

■あゆみ橋景観設計

沼津の中心部・狩野川に架かる有効幅員7m、全長229mの歩行者自転車専用橋、沼津駅側の商業中心と市役所周辺の行政中心を結び、かつ兩岸の2つの公園（中央公園－沼津城址、香貫公園・八幡神社）をつなぐ橋でもある。狩野川左岸高水敷内の緑地は様々な催し物の舞台となるため、橋脚位置を河道内に配置すべく構造形式はPC斜長橋+PC張弦梁の複合構造（斜張定着PC張弦桁橋）とした。基本計画から意匠設計・監理に関わり、兩岸の公園との一体設計を提案、中央公園の一部改造、香貫公園の設計、周辺公共空間デザインアドバイス（旧東海道）などにも関与してきた。



狩野川左岸高水敷広場でのイベントとあゆみ橋



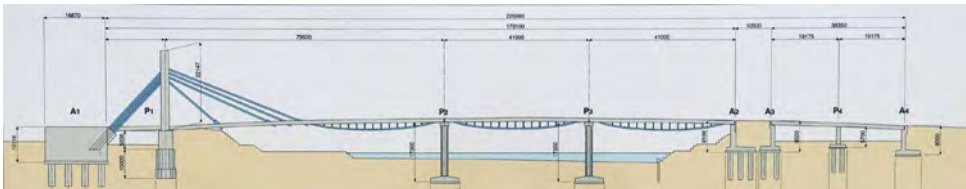
あゆみ橋の橋面*



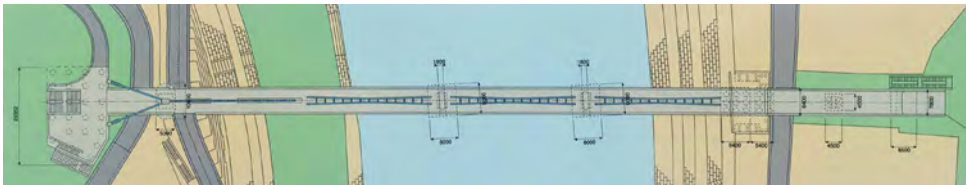
あゆみ橋架橋位置



あゆみ橋の鳥瞰写真（右岸側）*

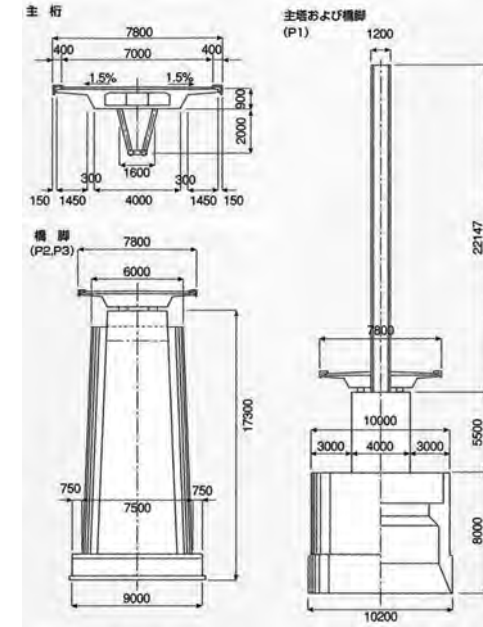


あゆみ橋側立面図



あゆみ橋平面図

経緯：（仮称）中央香貫公園橋梁整備計画（歩行者・自転車専用道路整備調査業務委託）'92.11～'93.3 財udc（沼津市・建設技術研究所と協働）、中央公園香貫線橋梁景観設計及び予備設計 '93.12～'94.3 財udc（沼津市・建設技術研究所と協働）、中央公園香貫線実施設計 '94.7～'95.3 財建設技術研究所（沼津市）、中央公園香貫線デザイン監理 '96.10～'98.11 財建設技術研究所（沼津市）、竣工：'99.3



あゆみ橋主要部立断面図



橋面の夜間照明



香貫公園の通路上から見るあゆみ橋主塔と橋詰のフォルム*



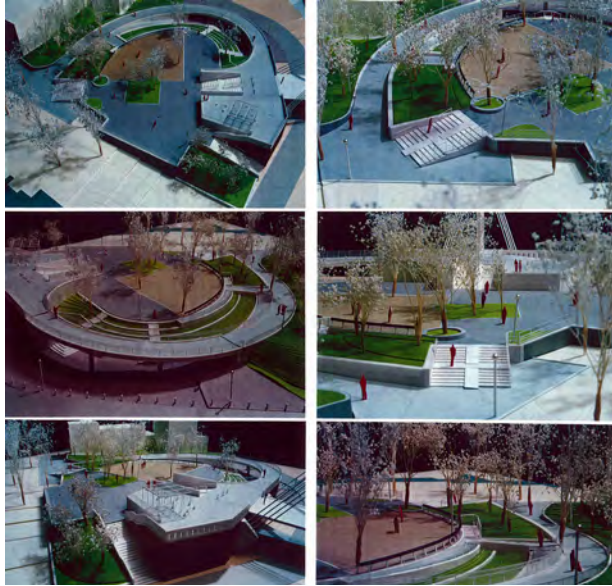
狩野川右岸高水敷よりあゆみ橋を見上げる

諸元：所在地：沼津市大手町一市場町、事業主体：沼津市、構造形式：斜張定着PC張弦桁橋（178m・96m+41m×2）、PC中空床版箱桁橋、橋長：226.085m、幅員：7.8m、有効幅員：7.0m、設計：基本設計―財udc、構造：建設技術研究所、景観：アール総合計画事務所、景観検討委員会（委員長・岸井隆幸 日本大学専任講師（当時））詳細設計・監理―建設技術研究所、工事期間：'95.5～'99.3、施工：住友建設、加和太建設／撮影：*安川千秋 担当：中野、重山、清水、金光、藤本、萩尾

■沼津・あゆみ橋景観設計・周辺公共空間整備（橋・公園・街路一 つづき） 香貫公園・公園橋

狩野川左岸の香貫公園はあゆみ橋から市庁舎方面へのアクセス上重要な位置にあり、歴史的にも旧城址の対岸に位置する市場八幡神社の境内に続く豊かな緑環境を保持してきたが、積年の河川堤防嵩上げでぼ地となったことに加え、老朽化も含め利用度も低下していた。そこで、あゆみ橋の整備に伴い通路機能も備えたスロープの設置も含め、全面改修を行うこととなりアプルに設計を委ねられることとなった。

検討にあたっては、様々な模型検討を踏まえ、既存樹の保全と公園利用の観点から、高低差を解消するための階段と円弧状曲線形のスロープ橋を採用し、周辺道路からの公園側の見通しを確保し、頂部橋詰のアンカレイジ部に視点場となるフォーリーを設置した。今では川沿いや橋の通行者も含め、多くの市民利用に供されている。

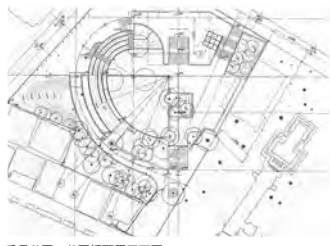


模型による検討プロセス（最終採用案模型）



香貫公園の通路上から見るあゆみ橋主塔

経緯：（仮称）中央香貫公園橋梁整備計画調査 '92.11～'93.3 ㈱ udc（沼津市）、中央公園香貫線橋梁景観設計及び予備設計 '93.12～'94.3 ㈱ udc（沼津市）、香貫公園実施設計 '95.12～'96.3 沼津市、中央公園香貫線取付通路設計 '95.12～'96.3 沼津市、デザイン監理はあゆみ橋監理に関連し、適宜アドバースにて対応、諸元・所在地：沼津市市場町 事業主体：沼津市 香貫公園／敷地面積：0.25ha 工事期間：1997～98 公園橋／構造形式：3径間RC中空床版箱桁橋 29.06m (9.77+9.52+9.77) 幅員4.0m 有効幅員：3.5m 施工：下部工一住友建設、加和太建設、上部工一住友建設／設計：アプル総合計画事務所、協力：橋部構造設計・株式会社シダ橋梁設計センター（至田利夫）



香貫公園・公園橋配置平面図



あゆみ橋の軸線状に保存された既存樹



上記の逆方向から保存樹越しにあゆみ橋方向を望む



公園橋の橋下空間

■沼津・あゆみ橋景観設計・周辺公共空間整備（橋・公園・街路一 つづき） 香貫公園橋



公園頂部橋部のフォーリーとスツール



橋のアンカレイジと一体化された公園部レンガ擁壁



香貫公園の円弧曲線形状のスロープ橋と緑地の視線の抜け具合

■旧東海道（川廊通り）および周辺公共空間

あゆみ橋、香貫公園の計画設計に関連し、周辺公共空間整備全般のデザインアドバイザーを担うこととなり、1）旧東海道（市道3681線）川廊（かむぐるわ）通りの電線地中化および石畳改修計画、2）上土地区階段護岸（設計：地域まちづくり研究所・代表丸山正仁氏）の照明デザイン提案、3）御成橋ライトアップおよび市役所通り照明等に関与した。なお照明デザインに関しては南雲勝志氏との協働による。



旧東海道川廊通りの入口サイン



電線地中化が実現し、石畳舗装となった旧東海道川廊通り



上土階段護岸遊歩道部の照明柱（南雲勝志氏デザイン）



電線地中化のトランスは民地側に設置



あゆみ橋周辺対象路線位置図



旧東海道川廊通りイメージスケッチ



水神社前ポケットパークイメージスケッチ

経緯：市道3681号線道路景観設計他業務委託 '95.11～'96.3 沼津市、都計道中央公園香貫線周辺整備検討調査他 '97.1～'97.3 沼津市 担当：中野、金光、萩尾、天野、協力・ナグモデザイン（南雲勝志）

